成瀬治興先生と共に味わった人生の喜び

成瀬　治興博士

成瀬治興先生は国宝犬山城主の成瀬家に縁のあるお公家さんで、その風貌通りに優雅に我々との間で存在感をもたらしていた。

名古屋工業大学の三年後輩で、遅れて大学院にもどった私は宮野研究室で初めて彼に出会って、その後彼が亡くなる迄六十年近く友人として、親しく過ごしてきた。

私は建物に係る「熱」の研究、成瀬先生は「音」を専攻して学業を深めていたが、成瀬先生はオーボエの演奏では既に学生オーケストラで有名で、その素晴らしい音で聴く人を魅了していた。名古屋の木管四重奏団の一員であり、招待されて彼の演奏を聴きに出かけたし、ドイツのバッハゾリステンの来日の時にはヴィンシャーマンのオーボエを聴きに同行して堪能したのを覚えている。パリ・バロックの演奏会にも一緒したが、自身はドイツでは現地でオーケストラと客演したと語っていた。

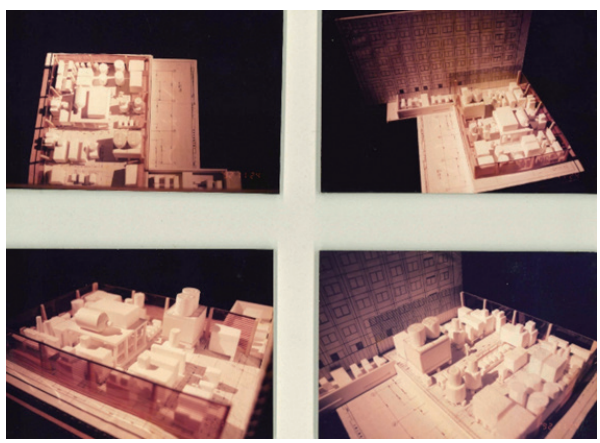
設計の業務での騒音対策にはいつも具体的に指導をうけていたが、何といっても高層２３階の広島ワシントンホテル設計の時には特別の支援、助言を得た。

何故なら５階屋上に設備の主たる機械全てを設置した設計では、その近隣に対する騒音対策が重要な問題であった。当時の新幹線での名古屋、広島往復は、いつも２階食堂車でビールやコーヒーを共に味わっていたが、帰りにはスティックシュガーをポケットに大事そうに入れていた姿が懐かしい。模型を作って、愛知工業大学のスーパーコンピューターを使ってのシミュレーションを行って成功に至った。

愛工大成瀬研究室からは二人の学生がペスに就職し、彼らは２０年以上に亘ってPESの主戦力として活躍してくれた。

愛知県の環境アセスメントのリーダーとして広域での活躍をしていたが、又、自分が出演する音楽会には必ず誘ってくれていた。幻想交響曲でのイングリッシュホルンを小林研一郎指揮で演奏した機会が、成瀬先生の演奏会での姿を見た最後である。

２００５年愛知万博のプロジェクトとしては、日本グリーンビルディング協会で行った地球環境アンケートに、成瀬研究室を中心に学生達を動員参加させて結実をもたらせていた。



騒音解析のための相似模型